

# がん看護学

必修

開講年次：2年次後期

科目区分：演習

単 位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：がんの予防から診断と治療、さらに終末期における対象と家族を取り巻く状況を看護の視点から理解する。痛みの緩和等の症状マネジメント、対象の心身両面の苦痛を和らげる緩和ケアについても学び、がん看護の役割と看護活動について学修する。

- 到達目標**：①がんを取り巻く看護・医療の動向を理解できる。  
②がんの予防・早期発見と看護師の役割を理解できる。  
③がんの病態と臨床経過を理解できる。  
④がんの治療に伴う患者の身体・心理・社会面への影響と必要な援助を理解できる。  
⑤小児がん患者のQOLを高める支援と家族支援を理解できる。  
⑥がん医療における緩和ケアの必要性を理解できる。  
⑦がん患者の家族に対する援助と死別ケアを理解できる。  
⑧がん看護における看護師の役割を理解できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎川村 三希子・上村 浩太・小坂 美智代

■**授業計画・内容**：

- 第1回 がん政策と医療・看護の動向／がんの疫学／がんの予防  
第2回 がん治療に伴う看護1 手術療法  
第3回 がん治療に伴う看護2 化学療法  
第4回 がん治療に伴う看護3 放射線療法  
第5回 がん医療における緩和ケア  
第6回 家族のケア・死別ケア  
第7回 小児がん患者のQOL、家族支援（上村）  
第8回 小児がん患者のQOL、家族支援（上村）  
第9回 がんサバイバーシップ各期における課題とケアの実際1  
第10回 がんサバイバーシップ各期における課題とケアの実際2  
第11回 がんサバイバーシップ各期における課題とケアの実際3  
第12回 がんサバイバーシップ各期における課題とケアの実際4  
第13回 がんサバイバーシップ各期における課題とケアの実際5  
第14回 がんサバイバーシップ各期における課題とケアの実際6  
第15回 がんサバイバーからのメッセージ

■**教科書**：「系統看護学講座 別巻 がん看護学」／小松浩子 医学書院、2013

■**参考文献**：「がんサバイバーシップ」近藤まゆみ、嶺岸秀子編著、2006  
「系統看護学講座 別巻 緩和ケア」／恒藤暁、内布敦子編集、2012

■**成績評価基準と方法**：(2/3以上の出席をもって下記のように評価する)

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	①-⑦	⑧		
試験(授業内)	◎			80
レポート	○	○		20
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：症状マネジメント論、成人看護学概論、疾病治療学A、疾病治療学B、臨床薬理学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業では、がん患者とその家族の体験DVD、闘病記などを紹介しながら進めます。がんを持ちながら生活するとはどのようなことなのか理解し、何をすることが看護になるのかを考えながら、授業に参加してください。